

事業実績書

記入者	所属名
	職・氏名
	電話番号
	メール

1 事業内容

事業者名	社会福祉法人 山形県社会福祉事業団		
事業所名	特別養護老人ホーム大寿荘		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	100名
〔介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数〕	[製品名] ココヘルパG [導入台数] システムウェア 1式、会話ユニット 109台 アンドロイド端末 20台、ヘッドセット 5台 [導入日] 令和6年2月22日		
事業完了日(支払日)	令和6年3月25日		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
使用状況 (使用する業務・使用頻度等)	・中央棟、東棟、西棟介助に入る職員及び看護師がタブレットを携帯し、各棟のコールに対応。なお、医療処置が必要になった場合には、インカム及び内線機能を利用し、援助職と看護師間で連携を図り利用者対応にあたる。		
導入効果 ※導入によって得られた効果に関するデータを客観的な評価指標に基づき示すこと(介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度、収支の改善など)	・従前のナースコールはコールが鳴った場合、職員待機所(※以降、スタッフルーム)の受信機を都度確認に行かなければならなかったが、この度導入されたシステムは職員の持つタブレットにコール箇所が表示されることから、近くにいる職員がすぐに現場へ駆けつけることが可能となり、対応までの時間短縮につながった。 ・医療処置を必要とする場合、これまでは看護師を探しに行かなければならなかったが、新ナースコール導入後はタブレットの内線機能を利用することで、即座に対応依頼が完了することで、移動にかかる業務負担が軽減された。 ・機器導入にあたり、関係部門のリーダー職員及び看護師を含めて業務フローの整理を行ったことで、効率的な対応方法を策定することができた。また、これにより、責任の所在が明らかになり、対応への遅れ解消にも繋がった。 ・上記を踏まえ、職員に対する満足度調査を行ったところ、51%の職員が機器導入による業務効率化を感じている結果となった。		

導入後の課題や次年度計画の確認等	・職員間で機器使用の習熟度に格差が見られる。年齢の高い職員がタブレット自体の使用に慣れてなく、拒否反応を示しているため、まずは全体が満遍なく機器の使用に慣れてもらうことを最優先し業務を組んでいきたい。 ・支援体制検討委員会を発足し、職員からの意見聴取をもとに、よりよい支援体制を検討する。委員会の成果物として、業務フローを含んだマニュアルを作成し、人事異動により人員が変わった場合でも職員が標準的に機器を使用できることを目指す。
------------------	---

2 実施経過

年月日	実施内容	従事者
5年4月1日 ～5年7月31日	・導入機器の選定 ・必要台数の検討 ・業者より見積徴収	事務長ほか 部門リーダー 3名
5年8月1日 ～5年8月31日	・部門ごとに機器導入の効果を検討 ・導入スケジュールの検討 ・上記を踏まえ事務長を主担当に、「山形県介護ロボット導入支援事業費補助金」の協議を作成し法人に提出 ・法人担当が各事業所分を取りまとめのうえ、山形県健康福祉部あて提出	事務長ほか 部門リーダー 3名 法人担当
5年10月10日 ～5年10月23日	・「山形県介護ロボット導入支援事業費補助金」の内示を受け、交付申請書を法人に提出。 ・法人担当が各事業所分を取りまとめのうえ、山形県健康福祉部あて提出	事務長 法人担当
5年10月10日 ～6年2月22日	・交付決定(令和5年11月10日)を受け、法人担当が複数業者により入札を実施 ・納入業者の決定及び契約書の締結(令和5年12月28日) ・事前工事の実施(令和6年2月16日～令和6年2月19日) ・機器の納品及び設定作業(令和6年2月20日～令和6年2月22日) ・納入業者による職員へ向けた操作説明会の実施	法人担当 事務長 全職員
6年2月24日 ～6年3月31日	・事務長、医務、援助棟リーダー3名をメンバーに「支援体制検討委員会」を発足。機器運用及び支援体制向上に向けた業務フローの検討を行う。 ・機器使用に向け職員に操作方法を伝達(リーダーが主となり棟職員へ展開) ・利用者への機器変更の周知 ・機器使用開始(令和6年3月1日～) ・職員向けに満足度調査を実施。使用の評価を	支援体制検討委員会

	経過時点での評価を行う。 ・購入代金の支払い（令和6年3月25日） ※法人にて一括契約のため、事業所から法人に 対しての振込	
--	---	--

※機器の選定から実績報告時までの経緯や契約日、導入日、支払日を記載すること。

※導入工程や従事者が分かるものであれば、業務日誌等でも可。

※事業計画書のスケジュールに合わせて作成すること。

事業実績書

記入者	所属名
	職・氏名
	電話番号
	メール

1 事業内容

事業者名	社会福祉法人 山形県社会福祉事業団		
事業所名	特別養護老人ホーム福寿荘		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	90名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] ココヘルパG [導入台数] ココヘルパシステムウェア 1式 / アンドロイド端末 5台 / コミュニット(GBTU-01) 4式 / インカムソフトウェア 4台 / 無線LAN アクセスポイント(WAPM-1266R) 18台 / PoEハブ 16ポート(BS-GS2016P) 3台 / UTP ケーブル 1,000m / 会話ユニット 99台 他		
	[導入日] 令和6年2月29日		
事業完了日(支払日)	令和6年3月25日		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="checkbox"/> 購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
使用状況 (使用する業務・使用頻度等)	・主にアンドロイド端末を貸与した勤務時間内の職員リーダー、中央棟、東棟、西棟勤務の職員各棟1名の計4名と、援助員室内のディスプレイにて、施設内の様々な場所からの利用者や職員のコールに対応した利用者支援に活用。 ・インカムにより利用者支援、業務に係る職員間のリアルタイムでの情報共有に利用。 ・夜間時の勤務に限らず、毎日の業務で継続的に運用。		
導入効果 ※導入によって得られた効果に関するデータを客観的な評価指標に基づき示すこと(介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度、収支の改善など)	・従来のナースコールの呼び出しに対して、職員が対応するには、廊下に設置の呼び出し等に気付くか、援助員室設置の受信機により、音楽等の呼び出しで確認し、館内放送かコールがあったことを各棟に勤務に入っている職員に直接伝える方法等であったため、夜間勤務時のコールに対しては、迅速な対応を取りづらいついた状態であったが、アンドロイド端末等によるコールの可視化が図られ、呼び出しへの対応、気づきが格段に向上し、業務の軽減となっている。		

導入後の課題や次年度計画の確認等	・導入後の日が浅いため、職員間でインカム機器使用への習熟度に差がある。 ・インカム連動されていないアンドロイド端末の有効的な活用方法の検討。 ・インカム、ナースコールシステムの全援助職員の基本的操作方法の習得。限られた職員のみが使用することのないように、研修時間等を設定し機器の使用に消極的にならない体制の構築。 ・インカム、ナースコールシステムの紙媒体での使用業務マニュアル作成。
------------------	--

2 実施経過

年月日	実施内容	従事者
令和5年2月2日 ～令和5年5月31日	・導入機器の選定 ・必要台数の検討 ・業者より見積徴収	・施設長 ・職員1名
令和5年7月28日 ～令和5年8月28日	山形県介護ロボット導入支援事業費補助金事前協議書の作成、申請手続き。 ・法人担当が各事業所分を取りまとめのうえ、山形県健康福祉部あて提出	・施設長 ・職員1名 ・法人担当者
令和5年10月10日 ～令和5年10月23日	「山形県介護ロボット導入支援事業費補助金」の内示。 ・交付申請書を法人に提出。 ・法人担当が各事業所分を取りまとめのうえ、山形県健康福祉部あて提出	・施設長 ・職員1名 ・法人担当者
令和5年11月10日	交付決定。法人担当が複数業者により入札を実施	
令和5年12月28日	納入業者の決定及び契約書の締結	
令和6年1月21日 ～令和6年1月22日	施設内 Wi-Fi 環境設置工事	
令和6年2月27日 ～令和6年2月29日	システム機器の納品及び設定作業 ・納入業者による操作説明会実施(2月28日)	
令和6年3月1日～	機器使用開始	
令和6年3月25日	購入代金の支払い ※法人にて一括契約のため、事業所から法人に対しての振込	

※機器の選定から実績報告時までの経緯や契約日、導入日、支払日を記載すること。
 ※導入工程や従事者が分かるものであれば、業務日誌等でも可。
 ※事業計画書のスケジュールに合わせて作成すること。

